



南側正面ファサード



北側ファサード見上げ



吊行灯とソファが配置されたエントランス



デッキテラスとエントランスの行灯が街に安心感を提供

### PROUD FLAT 浅草橋Ⅲ

竣工年: 2018  
所在地: 東京都台東区柳橋 1-25  
用途: 共同住宅  
敷地面積: 355.58 m<sup>2</sup>  
建築面積: 205.03 m<sup>2</sup>  
延床面積: 1669.53 m<sup>2</sup>  
構造: RC造  
規模: 地上 10階

浅草橋・蔵前・日本橋エリアは高度成長期に建設されたビルの老朽化と経済状況の変化により、大きな転換期を迎えており、本施設と同様に、敷地が集約され新しいマンションに建て替えられているケースが多く見られる。その多くはセキュリティを重視するため、街に閉じていることが多く、街のにぎわいや通りの連続性を損なっており、夜はとてもしばしい通りとなっている。一方で古い建物の1階部分をリノベーションした、小規模なショップ、カフェ、ギャラリーなども現れており、街の魅力を高める重要な要素となっている。

本施設では、通りの連続性を保ち、魅力を高めていくために、通りに開いた共用スペースを設けており、内外が連続したラウンジとデッキテラスで緩やかに街に開く構成としている。吊り行灯と一体化した大きなソファが置かれたラウンジは共用の「居間」として、またアルミルーバーのパーゴラで囲われたデッキテラスは、街の「縁側」として、各々が好きな居場所を見つけ、思い思いの時間を過ごすことで、仮住まいとしての場所ではなく、街にも住まいにも愛着が生まれることを期待している。

デザインに際し、江戸時代から続く浅草橋周辺の歴史性を繋ぐ現代デザインを模索した。バルコニー手摺は日本伝統の屏風をモチーフに、折板形状のアルミ素材でモダンに表現した。シンプルでありながらも光を受ける向きによって時々刻々と表情を変える外観を生んでいる。通りに面したデッキテラスとラウンジには行灯を掛け、日本的な「あかり」で居住者を迎え、通りにも安心感を提供している。柔らかな光と木のぬくもりは帰宅者を暖かく包んでくれる。ビルが立ち並ぶ雑多な街の中で直立するこの建物が、行灯のように街のあかりとなり街をつなぐ存在となることを目指してデザインを行なった。